

# ウェーブ体験飛行実施要領

Rev.ORG

2021年12月20日

## 1. 飛行前準備

ウェーブ体験飛行を実施する前に体験者に対し以下の確認、説明を実施する

- ① 体調の確認（参加者の体調管理シートまたは口頭で確認）
- ② 講習会資料「山岳波による高高度飛行の安全について」についての理解を確認
- ③ 新型コロナウイルス感染防止対策実施・確認（2. 項参照）
- ④ 機体搭載酸素システム（EDS）、携帯用酸素の取り扱い、注意事項の説明
- ⑤ 体験飛行の実施手順、コースについての説明
- ⑥ 緊急時の対応について説明

## 2. 新型コロナウイルス感染防止対策

- ① 搭乗者は、「新型コロナウイルス感染防止基本対策」を順守すること
- ② 機体搭載酸素システム（EDS）及び携帯酸素については以下の新型コロナ感染対策を行う
  - ・使用するカニューラ、マスクは使用者毎に交換を実施する
  - ・使用毎にカニューラ及びマスクの接続部と周辺をアルコール等で消毒する
- ③ 携帯用酸素は機器内への呼気の流入を防ぐため、以下の手順で使用する
  - 酸素吸入を行う時
    - a. 酸素バルブを開けて酸素を出す
    - b. カニューラを装着
    - c. 酸素吸入
  - 酸素吸入を終える時
    - a. 酸素バルブは開けたまま
    - b. カニューラを外す
    - c. バルブを閉じる

## 3. 体験飛行の実施方法

- ① 酸素システム搭載機の場合（K2, 2325, SS）
  - a. 5,000Feet 付近からパルスオキシメーターにて血中酸素濃度の測定を行う。機長は同乗者の血中酸素濃度を定期的（5,000Feet、8,000Feet、10,000Feet 等）に確認する。

- b. 血中酸素濃度が93%未満となった時、また、血中酸素濃度が93%以上でも8,000Feetを超えたら酸素吸入を開始する。
- c. 飛行中同乗者の体調と血中酸素濃度をモニタし、93%以上が維持できる様、酸素吐出量の調整を行う。酸素吐出量が最大（R/M MODE）でも93%未満となり回復しない場合または体調が回復しない場合は、8,000Feet以下に降下する。8,000Feetでも体調が回復しない、血中酸素濃度が93%以上に回復しない場合はさらに降下して着陸する。
- d. 上限高度は、機長の「高高度飛行実施必要経歴」による。しかし同乗者の体調、血中酸素濃度含め、安全を考慮して機長が判断する。

② 酸素システム未搭載機の場合(554, JA2178)

- a. 5,000Feet付近からパルスオキシメーターにて血中酸素濃度の測定を行う。機長は同乗者の血中濃度を定期的（5,000Feet、8,000Feet、10,000Feet等）に確認する。
- b. 血中酸素濃度が93%未満となった時、血中酸素濃度が93%以上でも8,000Feetを超えたら携帯用酸素の吸入を開始する。
- c. 飛行中は同乗者の体調と血中酸素濃度をモニタし、血中酸素濃度が93%未満となった場合は、なるべく高度を維持しながら酸素吸入を行い、血中酸素濃度計測を継続する。血中酸素濃度が93%以上に回復したならば飛行を継続する。もし、同乗者の体調が回復しない、血中酸素濃度が93%以上に回復しない場合は降下し着陸する。
- d. 上限高度は、原則として10,000Feetとする。
- e. 10,000Feet付近において、降下や高度維持を意図していても、雲の回避や、強いプラスで実施出来ない場合は、機体に過度の負荷を与える可能性があるため、上限高度を守るための無理な増速やエアブレーキ展開を行う事は避け、安全に降下出来る地点に移動してから降下を実施する。その場合の上昇高度も最小限にとどめるようにする。
- f. 上限高度に達していない場合でも、十分なウェーブ体験が実施できたと判断した場合は、上昇を避けて降下する。

#### 4. 緊急時の対応

##### 酸素システムの故障等

高高度飛行中、酸素システムが故障した場合、または酸素未搭載での飛行中に血中酸素濃度が93%未満となった場合は、下記の手順で降下を行う。

① 酸素搭載機（K2, 2325, SS）の場合：

10,000Feet以上の高度で飛行中に酸素システムが故障した場合は、携帯用酸素で酸素吸入を行いながら、10,000Feet付近まで降下を行う。93%未満の値が続くようであればさらに降下し、可能ならば滑空場に着陸する。

② 酸素未搭載機(554, JA2178)の場合：

5,000Feet から血中酸素濃度の測定を定期的に行い、93%未満に下がらない様注意して上昇する。血中酸素濃度が93%未満となったら、8,000Feet 付近まで降下する。8,000Feet 付近で再度測定を行い、回復すれば血中酸素濃度をモニタしながら8,000Feet 以下で飛行継続。血中酸素濃度が93%未満の値から回復しない様であれば、携帯用酸素を使用しながらさらに降下し、滑空場へ着陸する。

## 5. 注意事項

① 搭乗者の体調管理について

機長は、飛行中、同乗者について下記の確認を定期的に行う

- 同乗者の体調
- 同乗者の血中酸素濃度

機長は、自信の体調、血中酸素濃度についても定期的に確認を行う事。特に高高度飛行を繰り返し実施する際は相当な疲労が蓄積される可能性があるため注意すること。

② リスク管理について

- 機長は、気象条件、上昇高度、速度、帰投するためのバス角について、十分な安全マージンを持って飛行すること。
- 機長は、安全を最優先とし、難しいと判断した場合は飛行を中止、帰投すること。

③ タンデムファルケ (JA2178) で高高度飛行を実施する際の注意事項について

- エンジンが急激に冷却するのを防ぐため。ウェーブで高高度飛行を実施する際は、エンジン停止を行わず、常時エンジンを作動させたまま飛行する。
- 高高度飛行を行う際のエンジン回転数は、1,500RPM 位を最低とし、油温が低下しない様注意する。
- 高高度にて出力を増減する場合は、カウルフラップを閉にし、急激な温度変化が発生しない様注意する。
- 緊急時を除き、出力の増減は緩やかに行う事